

問 40歳以上への ヨウ素剤の配布は

答 今後もすべての年齢の方を対象に



みすずの会
あべ 功志 議員

問 原子力規制委員会
は、今後、ヨウ素剤を
配る対象を原則40歳未
満に限る、と方針を見
直した。しかし40歳以
上に発ガンリスクな
しという根拠はないと
も言う。村の見解は。

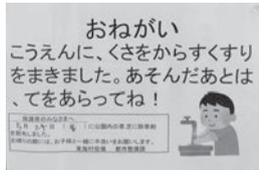
答 今年2月までに
16,574人に配布
した。配布率は約42.
5%。今年7、8月の
配布会では、茨城県な
どとの調整を踏まえ、
すべての年齢の方を対
象に配布する。その後
は別途検討する。

問 村内公園への除草
剤散布の実態は

答 使用しないのが理
想、調査研究する

問 5月末、村内の公
園に除草剤を散布した
と掲示があった。使用
農薬は2種類で、発ガ
ン性のあるフロルフタリ
ム50%のダイヤメート
水和剤。それと猛毒の
パラコートやジクワット
を含むプリグロックス。
健康被害が心配される
ので、農薬は使用せず、
刈り払いにしては。

答 環境への保護から
考えると使用しないこ
とが理想だが、刈り払
いでは間に合わない現
状。除草する回数を増
やすことで除草剤を使
用しないことができる
か等、調査研究する。



公園の注意をうながす掲示物

問 10月からの 保育無償化の対応は

答 臨時的保育施設の設置も検討



新政とうかい
ささしま しろう 議員

問 今年の10月から幼
児教育・保育無償化が
始まる。夫婦共働きの
生活がスタンダードに
なりつつある現状で「私
も保育所に預けて働き
たい」という家庭は多
いと思う。昨年9月議
会で、待機児童解消に
向け2歳児未満の小規
模保育、駅近などに一
時預かり所設置を提案
した。その後の状況と
無償化への対応を伺う。

答 小規模保育の取り
組み状況については、
現時点では整備場所や
実施事業者などは決定
していない。令和2年
4月開所に向け取り組

んでいる。10月からの
制度開始に向けては、
無償化により潜在的
な保育ニーズが掘り起
こされ待機児童の状況
は、今以上に厳しくな
ると考えている。

問 待機児童の状況
が、今以上に厳しくな
ると考えているのであ
れば、幼稚園・小学校
など公共施設の空き部
屋を仮設の保育所とし
て再利用してはどうか。

答 期間を限定した臨
時的保育施設の設置や
公立幼稚園をはじめと
する既存施設の活用も
検討したい。



保育所がいっぱいで入所することが
出来ずに困っている働くお母さん